

作成日:2010年12月20日

更新:2013年8月1日

製品安全性データシート(MSDS)

1. 化学物質等及び会社情報

1.1 化学物質等の名称

製品名: Super Lube® Grease
Super Lube® 多目的グリース
品番: 82340, 21006, 21010, 21030, 21036, 41150, 41160, 4116K,
41050, 41030, 41120, 41140, 21013, 21015, 11520, 00585

1.2 会社情報

会社名: 株式会社協同インターナショナルコーポレーション
担当部門: 営業3課 産業機器チーム
住所: 〒541-0053 大阪府中央区本町3丁目3番8号
電話番号: 06-6281-2800(代表)
Fax 番号: 06-6281-2808
緊急時の連絡先(電話): 06-6281-2806

1.3 推奨用途 潤滑剤

2. 危険有害性の要約

2.1 GHS 分類結果

| | |
|-----------|--------|
| 物理化学的危険性 | |
| 引火性液体 | 対象外 |
| 健康に対する有害性 | 分類できない |
| 環境に対する有害性 | 分類できない |

2.2 GHS ラベル要素

| | |
|-------------|----|
| 絵表示またはシンボル: | なし |
| 注意喚起語: | なし |
| 危険有害性情報: | なし |
| 注意書き: | なし |

2.3 重要危険有害性 GHS 分類では、引火性液体(区分外)であるが、引火性を有しているため注意が必要である。

3. 組成及び成分情報

3.1 単一物質・混合物の区別 混合物

3.2 一般名または化学名 Super Lube® 多目的グリース

3.3 成分情報

| 化学名または一般名 | CAS 番号 | 化審法官報公示 整理番号 | 濃度 (%) |
|--------------------|------------|-----------------|-----------|
| ポリ- α オレフィン | 68037-01-4 | (6)-1109 | <85 |
| ホワイトミネラルオイル | 8042-47-5 | (9)-1692 | <25 |
| ヒュームドシリカ | 68611-44-9 | (1)-548 | <5 |
| ポリテトラフルオロエチレン | 9002-84-0 | (6)-939 | <4 |
| 酸化防止剤 | 41484-35-9 | (3)-3094 | <2 |
| ポリプロピレングリコール | 25322-69-4 | (7)-129 | <1 |
| 添加剤 | 非開示 | 非開示 | <0.5 |

3.4 GHS 分類に寄与する危険有害成分

なし

4. 応急措置

4.1 暴露経路による応急措置

- 吸入した場合： 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合： 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
- 目に入った場合： 少量でも目に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。
無理に吐かせてはならない。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

4.2 予想される急性症状及び遅発性症状

- 急性症状： 眼に刺激のおそれ。
- 遅延製症状： 皮膚に刺激のおそれ。

4.3 応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

5.2 使ってはならない消火剤

棒状放水、水噴霧

5.3 特有の危険有害性

熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
激しく加熱すると燃焼する。

5.4 特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

5.5 消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な保護具(ボンベ付呼吸補助器具等)や耐火服を着用する。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

全ての着火源を取り除く。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
密閉された場所に立入る前に換気する。
作業者は適切な保護具(「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

6.2 環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

6.3 回収、中和、封じ込め、および浄化の方法

危険でなければ漏れを止める。
不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。

6.4 二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 取扱い

技術的対策: 長期間、繰り返して直接手などの皮膚に触れると刺激のおそれがある。また、眼等に触れると刺激のおそれがあるので、必要に応じて適切な保護具(「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触を避けること。溶液の蒸気/ミストを吸入しないように換気のいい場所で取扱うこと。

安全取扱い注意事項: 取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

7.2 保管

技術的対策: 通常、局所排気装置等の設置の必要はない。
混触禁止物質: 酸化性物質

保管条件: 容器を密閉して冷乾所で保管すること。
容器包装材料: 破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用すること。

8. 暴露防止及び保護措置

8.1 管理濃度・作業環境評価基準

設定されていない。

8.2 許容濃度(暴露限界値、生物学的暴露指標)

日本産業衛生学会(2010): 3 mg/m³ (鉱油ミスト)

ACGIH (2009) TLV-TWA: 5 mg/m³ (鉱油ミスト)

8.3 保護具

呼吸器の保護具: 吸入するおそれがある場合、呼吸用保護具を着用する。
手の保護具: 必要に応じて、保護手袋を着用する。
眼の保護具: 眼に入るおそれがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具: 必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

8.4 設備対策

取り扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄剤のための設備を設ける。

8.5 衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。
取扱い場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観: 透明半固体
臭い: 有臭
比重: 0.89
引火点: >220°C
溶解性: 水に不溶
揮発成分: 事実上含まない

10. 安定性及び反応性

一般の取扱い条件下では安定である。
酸化性物質との接触を避けること。
燃焼すると、二酸化炭素を発生する。

11. 有害性情報

11.1. 製品の有害性情報

眼に刺激のおそれ。
反復ばくろで、皮膚に刺激のおそれ。

11.2. 成分の有害性情報

急性毒性:
ラット(経口) LD₅₀ > 5,000 mg/kg (ホワイトミネラルオイル)
ラット(経口) LD₅₀ > 5,000 mg/kg (酸化防止剤)
ウサギ(経皮) LD₅₀ > 3,000 mg/kg (酸化防止剤)
ラット(吸入) LC₅₀ > 3.5 mg/m³ (酸化防止剤)
ラット(経口) LD₅₀ > 5,000 mg/kg (ヒュームドシリカ)
ラット(経口) LD₅₀ > 10,000 mg/kg (ポリプロピレングリコール)
ウサギ(経皮) LD₅₀ > 10,000 mg/kg (ポリプロピレングリコール)

刺激性:
刺激性(ホワイトミネラルオイル)
刺激性(ポリテトラフルオロエチレン)
皮膚及び眼に刺激性(ヒュームドシリカ)

12. 環境影響情報

情報なし

13. 廃棄上の注意

13.1 残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

13.2 汚染容器および包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

14.1 国際規制

国連番号: 該当しない
航空輸送: 該当しない
海上輸送: 該当しない

14.2 国内規制

陸上規制: 消防法の規定に従う。

航空規制: 該当しない

海上規制: 該当しない

14.3 緊急時応急措置指針(容器イエローカード)番号: 該当しない

14.4 特別の安全対策: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

容器に衝撃を加えたり、引きずる等の乱暴な取扱いをせず、転倒、落下、破損しないように積載する。

重量物を上積みしない。

15. 適用法令

<国内法令>

労働安全衛生法: 名称等を通知すべき危険有害物(鉱油)

化学物質管理促進法(PRTR 法): 該当しない

毒物劇物取締法: 該当しない

消防法: 非危険物

<海外法令>

カナダ CEPA 総ての成分は DSL リストに記載されている

米国 TSCA 総ての成分は TSCA インベントリーに記載されている

NSF による登録 Nonfood Compound Program Listed Category Code H1 に登録

16. その他の情報

参考文献: Synco Chemical Corporation MSDS

日本産業衛生学会(2010)許容濃度の勧告

ACGIH (2010) TLVs and BEIs

【注意】本 MSDS は、JIS Z 7250:2005、JIS Z 7251:2006、JIS Z 7252:2009 に準拠し、記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。